障害者自立支援機器

ニーズ・シーズマッチング交流会 2026

どなたでもご参加いただけます！
入退場自由
入場無料



作る人と使う人の交流会

みんなで考えよう！

ニーズ・シーズマッチング交流会とは？

障害当事者の思いや要望をより的確にとらえた支援機器の開発に繋げるため、支援機器の障害当事者（ニーズ側）と開発者（シーズ側）が自由に意見交換を行う場です。

交流会では、以下の補助者が常勤しています

- 手話通訳
- 要約筆記（手書きノートテイク）
- 失語症者向け意思疎通支援者





使う人（ニーズ側）
「いろいろな支援機器を試してみたいです。日常で困っていること、もっと使いやすくなる工夫を伝えたいです。」



作る人（シーズ側）
「どんな場面で困っているのか、直接聞かせてください。本当に役立つ支援機器を一緒に考えたいです。」



Web開催

令和8年10月1日(木)～令和9年1月31日(日)
テクノエイド協会HP内　Web交流プラットフォーム

開催イベント内容：

- 出展企業および支援機器の紹介動画等の配信
- 出展者への相談・質問（オンライン／電話）

東京会場に来られない方も、WEB 上で動画や情報を閲覧可能



参加方法：

協会 HP の「交流会」バナーをクリック、または右記二次元コードから Web 交流プラットフォームへアクセス
（詳細はパンフレット P3 ～ 4 をご参照ください）

Web交流会
二次元コードから
アクセス

東京会場

令和8年12月17日(木)・18日(金) 2日間
時間：初日10：00-17：00／最終日10：00-16：00
会場：東京都立産業貿易センター台東館（5・6階展示室）
受付／6階　まずは6階へおこしください。

開催イベント内容：

支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施



併催イベント内容：

- 開発支援機関による助成金の事業の取り組みについて
- 支援ネットワークによる公開シンポジウム
- 特別講演「障害福祉分野におけるメンタルヘルスロボット・パロの活用事例」
- パネルディスカッション「支援機器が果たすべき社会的効果と AI 技術の活用
- シンポジウム「デジタル・ディバイド解消に向けたノウハウ共有フォーラム」（総務省）

X（旧Twitter）

YouTube

対象者
ニーズ側　障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者 等
シーズ側　開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

本事業は「令和8年度 ニーズ・シーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

プログラム

障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング



12月17日(木)

6階

プログラム		内容
開会挨拶 5分	10:25～10:30	本交流会の目的、Web及び会場開催のごあんない 公益財団法人テクノエイド協会 企画部
行政の取り組み 各10分	10:30～10:40	障害者自立支援機器開発促進事業 ～機器の開発補助を中心とした取り組み～ 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官　中村 美緒 氏
	10:40～10:50	アクセシブルなICT機器等の総合的な開発普及推進事業について（仮） 総務省 情報流通行政局 参事官室 参事官補佐　若松 喜己 氏
	10:50～11:00	情報バリアフリー環境の実現を目指して 国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT） デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室 室長　芦澤 宏和 氏
	11:00～11:10	福祉用具の研究開発の推進 ～SBIR推進プログラムの実施について～ 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）SBIRチーム チーム長　坂元 清志 氏
	11:10～11:20	障害者自立支援機器等の開発を促進するSBIRフェーズ1 支援プログラムのご紹介 国立研究開発法人科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第1グループ　主任専門員 田上 清人 氏
支援ネットワークによる公開シンポジウム 発表各5分、ディスカッション等10分	14:00～14:05	支援ネットワークの役割と将来構想 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官　中村 美緒 氏
	14:05～14:10	①パラスポーツ支援広域ネットワーク 横浜市総合リハビリテーションセンター　中村 詩子 氏
	14:10～14:15	②石川県におけるリハビリテーション支援ネットワーク 石川県リハビリテーションセンター　寺田 佳世 氏
	14:15～14:20	③なごや自立支援機器開発・普及支援ネットワーク 社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ　冨板 充 氏
	14:20～14:25	④アシスティブ・テクノロジー広域支援ネットワーク 株式会社アシテック・オコ　小林 大作 氏
	14:25～14:30	⑤支援機器つながるかがわネットワーク 社会福祉法人かがわ総合リハビリテーション事業団 地域生活支援部 地域交流科　池田 泰明 氏
	14:30～14:35	⑥愛媛県支援機器つながる連絡会 愛媛県作業療法士会（松山赤十字病院）　篠森 丞 氏
	14:35～14:40	⑦北九州支援機器活用ネットワーク 北九州市立介護実習・普及センター　手嶋 正弘 氏
	14:40～14:45	⑧西九州支援機器普及・開発ネットワーク 西九州大学 デジタル社会共創学環/リハビリテーション学部　植田 友貴 氏
	14:45～14:50	⑨かごサポデバイスネットワーク 鹿児島大学 医学部保健学科作業療法学専攻　吉満 孝二 氏
	14:50～14:55	⑩九州・沖縄地域支援・広域支援ネットワーク 横浜市総合リハビリテーションセンター　渡邉 慎一 氏
	14:55～15:05	全体ディスカッション、統括（登壇者及び会場） 司会／公益財団法人テクノエイド協会 企画部

プログラム

交流会2026プログラム

東京都立産業貿易センター台東館（5・6階展示室）



12月18日(金)

6階

10:05 ▼ 10:50

特別講演

障害福祉分野におけるメンタルヘルスロボット・パロの活用事例



講演概要　アザラシ型ロボット・パロは、身体性人工知能（フィジカルAI）の応用で、日本では「福祉用具」として補助金対象となっています。
本講演では、パロとのふれあいによる認知症や障害者の行動・心理症状の改善、さらにセラピストの介入による社交性や社会スキルの向上について紹介します。

講　師　国立研究開発法人産業技術総合研究所
上級主任研究員　柴田崇徳 氏

6階

11:00 ▼ 12:00

パネルディスカッション

支援機器が果たすべき社会的効果とAI技術の活用



支援技術の価値を、社会に届く言葉に
―費用効果分析が拓く、支援技術産業への正当な評価　(20分)

株式会社The Elements
代表取締役　深宮智史 氏



支援機器が生み出す社会的価値とAI技術の可能性　(20分)

国立大学法人九州工業大学
大学院生命体工学研究科
教授　柴田智広 氏



ディスカッション（20分）

5階

14:00 ▼ 16:00

シンポジウム

デジタル・ディバイド解消に向けたノウハウ共有フォーラム
～ICT機器・サービスの開発から実用化・販売まで～



概要　アクセシビリティ対応の促進に向けて、研究開発やサービス・ICT機器の開発を進める先進団体から、研究成果や課題解決に関する説明をいただくとともに、登壇者と参加企業、研究機関でグループディスカッションを通した交流の場を設ける。

想定参加者　研究開発・サービス・ICT機器開発を行う企業・研究機関関係者
アクセシビリティ対応を推進しようとする、サービス導入を検討している企業

主催　総務省